

## 2011年度 大学院 総合プロジェクト課題概要表

### □ 科目名 総合プロジェクト

#### 1. テーマ(明確に内容がわかる表記とする。サブタイトルを付してもよい)

「芸工英語村」プロジェクト Speak & Challenge in English!

#### 2. 担当教員(複数2名以上の大学院担当教員で構成)

岡村 光浩(代表)・見寺 貞子・小倉繁太郎・佐久間 華

#### 3. 内容説明(課題概要や年間スケジュール等)

基幹科目「アカデミック・リテラシー」のプログラム(特に岡村の担当回)は、アカデミックな内容につき日本語・英語で「書く」ことに重きを置いた構成となっているが、本プロジェクトでは、「英語で話す(発表する)」ことを最重要視した活動を行う。

今年度が初実施でもあり、活動内容は履修登録者の研究テーマ・関心領域などを踏まえて柔軟に対応するが、ボトムラインとして「自分の研究テーマについて英語で話せる(プレゼンテーションできる)こと」を目標とする。(この目標は「アカデミックリテラシー」(英語パート)の「自分の研究テーマを英語で書けること」と対をなすものである)

メンバーは全員ミーティング(授業期間中、原則週1回実施)に出席し

- ・英語で自己紹介

- ・What's New in the World?(直近の興味あるニュース等を持ち寄り英語で議論)

- ・英語の映像教材(プレゼン技法教材、時事ニュース素材など)を見て英語で議論等の通常メニューをこなしつつ、

- ・個人発表(自分の研究テーマ等)

- ・チーム発表(3名から5名でチームを組み、自ら選び担当教員が承諾したテーマについて、共同で準備して発表)

等について各自準備し、全員ミーティングの機会に複数回発表することを求められる。

最終の発表は学内に周知し、公開で実施する。(12月予定)

全員ミーティングの時間には、本学英語科講師陣や英語ネイティブの学生もトレーナーとして参加予定。

なお本プロジェクトと別に学内外で英語プレゼン(アジア青年建築交流会議・ユネスコ国際ワークショップ・個人で参加の学会発表等)を行う者が、そこでのテーマを「持ち込み練習」することは歓迎する。プロジェクトメンバーの前で「予行演習」を存分に行ってもらい、メンバー全員でブラッシュアップに協力し、また成果を共有してもらいたい。

上記の他にもメンバーから英語で取り組んでみたいことのアイディアを積極的に出してもらい、メニューについても柔軟に軌道修正しながら進行の予定。

#### 4. 受入れ予定人数(履修条件)

英語を母語または公用語・準公用語としない者限定、上限10名程度。

※基幹科目「アカデミックリテラシー」の受講を必須とはしないが強く推奨する。